Net Work Report FORWARD for working together
ネットワークレポート フォワード 第45号

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14（エルおおさか4F）
TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256
http://www.workwith.or.jp/
E-mail:o-isc@onyx.dti.ne.jp
発行人/江口　敬一

今号のごあいさつ

「障がいのある家族をもつ人たちとの出会いに勇気づけられて」

代表理事　江口　敬一

9月25日に開催いたしました「2012障がい者雇用フォーラム in 大阪」は「中小オーナー経営者に障がい者雇用の原点を学ぶ」をテーマに、お蔭さまで300名を超える参加者があり、盛会裏に終えることができました。ご尽力いただきました関係各位に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、今回ご講演いただいた矢野紙器㈱社長 矢野 孝氏（当NPO理事）は、地域と共に生き人を大切にする経営をモットーに、障がいのある人と半世紀に亘って事業活動を展開され、また、シンポジウムにご登壇いただいた㈲奥進システム社長 奥脇 学氏、㈲サンライズCLID大阪社長 奥村 菜穂美氏、丸善運輸倉庫㈱社長 森藤 啓治郎氏の皆さんから共通して困難に遭遇した時、障がいのある社員がいたからこそ今があり、そして明日に繋がったというメッセージに、心揺さぶられる感動を会場の皆さまと共に味わうことができました。あらためて4人の経営者の皆さんに感謝申し上げます。

今年もあと1ヶ月余りを残す頃となりましたが、家族の中で障がいのある人の存在を今年ほど身近に感じたことはありませんでした。彼らの存在により家族の絆が強まっていく家族と、一方で崩れていく家族があります。できれば前者の道を選ぶ家族を多とする社会であってほしいと願っています。お目にかかった障がいのある家族を持つ人たちは多岐に亘っています。上記登壇者の中にも、また著名なノンフィクション作家、母体企業の役員、人事担当者、お世話になった弁護士、ハローワークの関係者、特例子会社を設立した人、勤務している人、国を動かし発達障がいの人のための新しい支援制度を誕生させたお母さんたち、そして小職にも障がいのある息子がいます。何がこれほどまでに保護者を突き動かすのでしょうか。自分たちの子供が生きる未来に幸多かれと願う親心が、現在の地域社会に無いものを自ら創り出していく勇気と力を彼らは与えてくれ、そこに彼らの存在の意味合いと社会的役割があるのだと実感しております。

私事ながら、息子は30歳になり、今年マイホームを新築しました。知的障がいのある人が10数年働いて得た収入で、ついのすみかを実現する事例に、成年後見人制度を利用している家庭裁判所の担当官も拍手を送ってくれました。障がいのある人が働き続け、必要なタイミングで多くの方の的確なサポートを受けながら、自分の意思で人生の夢を実現していくことが人としての自立と考えています。すべての障がいのある人が同じような道を歩むことは難しいかもしれませんが、お金の計算と無縁な彼が歩もうとしていく姿に希望が湧いてきます。いよいよ次は、結婚プロジェクトになりそうです。

大阪障害者雇用支援ネットワークも、頼ってこられる保護者や障がいのある人の未来に少しでも希望を与え続けられるようなネットワークであってほしいと願って止みません。

もうすぐ12月です。少し早いですが、皆様とご一緒にいい年を迎えたいものです。

「2012障がい者雇用フォーラム in 大阪」

広報事業部　岩﨑富巳子

NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークは連合大阪と共に９月25日、追手門学院大阪城スクエアで「2012障がい者雇用フォーラム in 大阪」を開きました。このフォーラムは、障がいのある人の雇用と就労の促進を目的として、毎年９月の「障がい者雇用支援月間」に開催しており、障がい者雇用を進める企業・事業所・就労支援関係者・労働組合など300人が集まりました。

開催にあたって各団体からあいさつがあり、続いて、2012年度の「大阪府障がい者雇用貢献企業（ハートフル企業）顕彰制度」の受賞事業所紹介、「ランプのともしび企業活動顕彰事業」の表彰式を行いました。

＜主催者あいさつ＞

○多賀 雅彦 連合大阪事務局長

大阪の障がい者雇用の現状は、実雇用率が1.63%で全国29位。法定雇用率達成企業の割合は43.8%で全国43位と、全国平均を下回る状況にある。しかし、雇用される障がい者の数は全国で約36万６千人、大阪は約３万６千人と年々増加している。特に、精神障がいのある方の就職件数の伸びは著しく、大阪では平成23年度が928件と、平成17年度と比べ3.26倍と大きく増加した。先のロンドン・パラリンピックの選手たちがプレーを通じて私たちに伝えてくれたメッセージは「決してあきらめないこと」である。幾多の困難を乗り越え競技を始めた意志の力、そして厳しい練習を継続して鍛え上げた気力、体力。職場に障がいのある仲間を迎え入れることは決して容易ではないが、「決してあきらめないこと」である。労働組合としても、障がい者の就労支援の拡充・職域拡大に向け、さらに運動を強化していく。

○江口 敬一 大阪障害者雇用支援ネットワーク代表理事

今回のフォーラムにシンポジストとして登壇いただく各社は、56人以下の会社ばかり。法定雇用率に係らず障がいを持った人たちと経営をされている。端的に言うと、「戦力になるから採用している」というところに、大阪の中小企業の街らしい特色がある。「支えつつ、支えられている」という障害者雇用と企業経営の話を聞き、もう一度、障害者雇用の原点に戻り、会社とはどうあるべきかということを、皆さんと勉強してまいりたい。

＜来賓あいさつ＞

○高橋 幸雄 大阪府商工労働部労働政策監（大阪府知事メッセージ代読）

大阪府は障がい者雇用日本一を目指し、平成22年４月に「大阪府障がい者の雇用の促進等と就労の支援に関する条例（ハートフル条例）」を施行し、契約締結や補助金交付の相手方など、府と関係のある事業主に対して、法定雇用率達成に向けた誘導と支援に努めている。また、来年４月から、民間企業における障がい者の法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられることから、さらなる支援に取り組む必要があると考えている。教育面では、就労支援に重点をおいた「たまがわ高等支援学校」タイプの高等支援学校の整備や、「職業コース」の新たな設置など、職場実習を柱とする実践的な職業教育の推進に取り組んでまいりたい。

2012年度『大阪府障害者雇用貢献企業（ハートフル企業）顕彰制度』受賞事業所紹介

●大阪府障害者雇用貢献企業（ハートフル企業）顕彰制度

大阪府が、障がいの有無にかかわらず、誰もが働くことに生きがいを感じ、自立した生活を送ることができる社会の実現に向け、障がいのある人の雇用の促進につながる企業活動を評価し、広く府民に紹介する制度。「ハートフル企業大賞」は、障がい者雇用の促進に貢献し、その功績が顕著である事業所を、「ハートフル企業教育貢献賞」は、障がいのある生徒に対する職業教育に関する貢献が特に顕著である事業所を、「ハートフル企業チャレンジ応援賞」は、障がい者の働きやすい職場づくりに取り組む事業所を表彰します。

【ハートフル企業大賞】（1社）

◆日本ドリームサービス 株式会社（大阪市）

事業内容：リネンサプライ

選考理由：昭和46年より41年の長きに亘り、知的障がい者を雇用し、家族的な職場環境の中で職場定着に努めている。また、特例子会社等を除いた障がい者雇用率も16.7%と非常に高く、障がい者雇用促進に寄与している。

【ハートフル企業教育貢献賞】（1社）

◆シャープ特選工業 株式会社（大阪市）

事業内容：電子部品加工等

選考理由：国内初の特例子会社であり、支援学校をはじめ多方面からの職場実習の受け入れに力を入れている。応募事業所の中でも、受け入れ人数が最も多く、職業教育に関する貢献は特に顕著である。

【ハートフルチャレンジ応援賞】（3社）

平成24年度新設

◆有限会社 奥進システム（大阪市）

事業内容：業務管理システム開発

選考理由：身体障がい者に優しい扉の整備や、在宅勤務システムの試行導入など、ハードウエア、ソフトウエアの両面から働きやすい職場作りに取り組んでいる。

◆株式会社 サンキ（門真市）

事業内容：梱包加工業

選考理由：社長自らが先頭に立ち、絵画指導を通じて職員間のコミュニケーションを図るなどの取り組みをしている。

◆社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団（大阪市）

事業内容：社会福祉事業

選考理由：障がい者の特性を活かした新たな職域開拓に努め、資格取得の支援やメンタルヘルスケアなどに取り組んでいる。

●ランプのともしび企業活動顕彰制度

障がいのある人の働く場面の増加と働く機会の拡大に焦点をおき、各事業所の障がい者雇用に係る諸活動を広く府民に知っていただき、雇用創出に繋がる機会を増やしていくための事業。障がい者雇用にかかわる特徴のある取り組みや独自性のある活動を中心に、大阪障害者雇用支援ネットワークにより表彰します。「ランプのともしび」は、ヘレンケラー女史がかつて大阪市中央公会堂で講演されたことが契機となり、我が国の障害者福祉制定や障がい者雇用の機運を広げたことに由来します。

パワフル大賞

◆有限会社 サンライズCLID大阪（岸和田市）

事業内容：リネンクリーニング業

活動内容：福祉職員時代に障がいのある人と共同でクリーニング業を立ち上げ、2002年に独立して現㈲サンライズCLID大阪を設立。2010年には（社福）いずみ野福祉会就労継続支援A型事業所の運営と、パワー溢れる女性経営者で多くの障がいのある人に希望と働く場を提供している。

代表取締役 奥村 菜穂美 氏

実習協力大賞

◆松田商会（富田林市）

事業内容：お菓子等の化粧箱組立

活動内容：2002年以来、施設の地域移行に連動して化粧箱の組み立て作業を、障がいのある人の職場体験及び職場実習の場として提供。「いつでもだれでも」をモットーに、これまで障害者就業・生活支援センターをはじめ、地域の作業所から多くの実習生を受け入れている。実習体験事業へ協力し、就職活動につながった人も多い。

代表 松田 靖江 氏

職域拡大大賞

◆株式会社 ベルエポック（豊中市）

事業内容：ハンバーガーの製造・販売

活動内容：マクドナルドのフランチャイズ経営を通して、これまで多くの障がいのある人に職場実習の場を提供。障がいのある社員も各店舗で活躍している。また、独自の障がい者セミナーの開催等、地域の障がい者雇用の中心的役割を果たす。

代表取締役 佐藤 明 氏

島んちゅぬ宝大賞

◆有限会社 協進食品（沖縄県）

事業内容：食肉解体・販売業、惣菜製造業

活動内容：障がいのある人が地域で共に生き、働くことを企業ビジョンに、20数年に亘り沖縄県特産の豚肉、惣菜等の製造・販売業を通して、地域の福祉事業所と連携。多くの職場実習の受け入れや雇用も実現した。また、企業と福祉の更なる連携強化を目指し、昨年には企業内授産に取り組むための新工場を建設した。

代表取締役 濱岡 一善 氏

基調講演

「障がいのある人と一緒に働いて」

広報事業部　嶋田　彰

『2012障がい者雇用フォーラム in 大阪』において、矢野紙器㈱代表取締役社長の矢野孝氏をお招きしご講演いただいた。キーワードは「人材育成」「体験」「思いやり」であった。

矢野氏は、二代目社長としてダンボール製造に携わり、初代社長の時代から聴覚障がいのある人を雇用し続けながら、その後も知的障がいのある人の雇用や多くの実習生を受け入れてこられた実績があります。また、支援機関や教育、行政等の関係機関やご自身と同じ立場である企業との連携を大事にしながら、様々な形で障がいのある人やその支援者、仕組みに対しても常に提言され続けてこられました。

矢野氏は「企業経営で大事なのは人材育成である」と語られ、“経営”とは人を育てる環境をつくることであり、“者”とはその中で育つもので、それが『人材育成』であるということです。これは、経営者も社員と共に育つことが重要であるということを意味していると思います。この矢野流の“人を育てる環境をつくる”経営を具体的に実践していく上で大事にしているのが「体験」と「思いやり」でした。日頃の企業経営の中で、答えを探し出すことができなければ、自身が先頭に立って、新たな目的や働きがいのある現場を「体験」しながらつくり上げ「思いやり」を忘れずに取り組んでいくことが組織の発展へと繋がることを強く語られました。

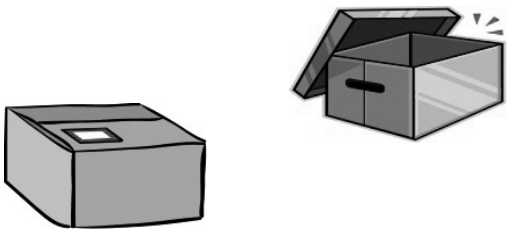
矢野氏は、講演の最後にこのようなエピソードをお話されました。

▲講演をする矢野代表取締役社長

『ある時、しんどそうにしている矢野社長を見た知的障がいのある従業員が、そばに寄って来て「僕がいるから大丈夫です」と…。』

同じ現場で、同じ視線で、同じ体験を共にする中で、お互いを思いやる気持ちが生まれる。矢野氏の取り組みは、あくまでも障がいのある人の「障がい」という部分を見ているのではなく、「ひとりの人」として向き合うことからすべてがはじまっていると思います。

企業経営とは、従業員と共に経営者も同時に育つ環境をつくることであり、障がいのある人と働くことで経営者も育っていく。この概念は法定雇用率とは一切関係がないもので“必要（な人材）だからこそ、そこに存在している”という障がい者雇用の原点を、じっくりと考えることのできる講演でした。



シンポジウム

「中小オーナー企業に障がい者雇用の原点を学ぶ」

広報事業部　嶋田　彰

〔シンポジスト〕㈲奥進システム	代表取締役	奥脇 学	氏
㈲ｻﾝﾗｲｽﾞCLID大阪	代表取締役	奥村 菜穂美	氏
丸善運輸倉庫㈱	代表取締役社長	森藤 啓治郎	氏
〔コメンテーター〕矢野紙器㈱	代表取締役社長	矢野 孝	氏
〔進行〕大阪障害者雇用支援ネットワーク	代表理事	江口 敬一	氏

『2012障がい者雇用フォーラム』基調講演の後、シンポジウムを開催した。

中小企業はどうして障がい者雇用をするのか、また雇用することの苦労や良さなどについて、問いかけがありました。

▲3人のシンポジスト

○㈲奥進システム 奥脇 氏

法定雇用率に関係のない中小企業としては、障がい者雇用は経営形態のひとつにしか過ぎないので、障がい者を雇用して“しんどい”と感じたことは一度もない。また、障がい者を雇用する中で、障がい者を取り巻く環境に仕組みがあることを知ったこと、関係者に出会えたことが何よりも良かったと感じている。

○㈲サンライズCLID大阪 奥村 氏

もともと「障害者労働自立センター」としてホームクリーニング業をスタートし、2002年に㈲サンライズCLIDとして企業を立ち上げた。職場の環境が変わる中でそれぞれの立場で自分の責任を果たすという成長が見られた。環境が人を育てることを知った。

○丸善運輸倉庫㈱ 森藤 氏

経営的に非常に厳しい時期があったが、雇用している障がいのある人の解雇は考えなかった。障がいのある人が存在する中で、どのような体制をつくるかを考えた。一般社員と障がいのある従業員との溝がなかなか埋まらず苦労したことがあったが、決して逃げることなくその現状と向き合うことで課題をクリアすることができた。

基調講演、シンポジウムを終えて…

基調講演とシンポジウムでは、矢野氏、奥脇氏、奥村氏、森藤氏の障がい者雇用に対する純粋な思いを聞くことができました。中小企業経営者としての立場で障がい者雇用を見ている部分（労使の関係）と、ひとりの人としてお互いが向き合っている部分（各々の存在を尊重）とが常に交差し、時には矛盾を感じながらも、それぞれが育つことのできる環境をあえてつくることへ挑戦（チャレンジ）し、決してあきらめることなく継続し続けていることが、発表いただいた皆さまの共通点だと思います。

これからも『障がい者雇用フォーラム』が、障がいのある人の就労を支援する様々な企業や支援機関、行政等が、課題とこれからの展望を共有できる場であり続けることを願っています。

第1号職場適応援助者（ジョブ・メイト）第2号職場適応援助者（ジョブ・コンダクター養成研修）の状況

ジョブコーチ事業部　伊集院　貴子

大阪障害者雇用支援ネットワークでは平成18年度より厚生労働大臣の指定を受け、職場適応援助者の養成研修を行っています。先日、第22期生が研修を修了しました。

▲講義の様子

これまでの研修修了者は、第1号職場適応援助者（ジョブ・メイト）578名、第2号職場適応援助者（ジョブ・コンダクター）183名、計761名です。（平成24年10月27日現在）

現在は、５つの民間法人が養成研修を行っています。これら５団体による養成研修の修了者は、平成23年３月末現在で2.300名を超え、地域の就労支援の裾野を広げるため一定の役割を果たしていると言えます。

大阪障害者雇用支援ネットワークの研修運営体制は、酒井事業部長（サテライト・オフィス平野）を筆頭に、安蔵さん（大阪市職業指導センター）、泉原さん（此花作業指導所）、森さん、私（大阪障害者雇用支援ネットワーク）の５人です。事業部の皆さまには本来業務でお忙しい中、何とか業務の調整をして研修運営にご協力いただいております。森さんと私はこの期間、養成研修にかかりきりでした。そこで、今期から第１号職場適応援助者（ジョブ・メイト）養成研修の修了者でジョブコーチとしても稼働されている松田さん、堀川さん（JSN門真）、茂木さん（JSN茨木）にも応援いただくことになりました。研修運営、受講者の対応、事業所見学への同行、事業所実習の巡回から研修講師に至るまで、何役もこなしながらの６日間となります。

さて、この研修は、「働くことの意味」「支援者の視点・立ち位置」「障害のある人を知る」「企業を知る」「人と仕事をつなぐ」「地域の就業支援ネットワークの構築」を柱に、様々な立場の講師の方が今までの経験や実践を踏まえ、講義、演習をしています。初日のオリエンテーションは皆さん緊張の面持ちで集まり、懇親会で名刺交換をしてお互いを知ります。２日目の演習で１つの課題に対して意見交換をすることで受講者間の親睦が深まり、３日目の事業所見学で受講者自身の業務上の課題について少し話し出す。４日目のケーススタディで各自のお悩み相談あり、５日目の企業実習でいきいきと働く障害のある人に励まされ、６日目で研修を終え、明日からの自分が実行することを決意表明する。しんどい中にも夢のような６日間が修了し、翌日の日曜日、または月曜日から現実に引き戻される。という流れです。

また、年に一度は、大阪障害者雇用支援ネットワークが主催する「職場適応援助者養成研修」を修了されたすべての方を対象に、「ジョブコーチアドバンスト研修」を開催しています。

同窓会のような形でお互いの現状報告や他の期に受講された方との交流を図り、ネットワークを広げていくことを目的におこなっています。今年度の予定については次頁のとおりですので、是非ご参加ください。

▲演習の様子

＜予告篇＞　ジョブコーチアドバンスト研修

日時：平成25年１月11日（金）13:00～17:00
場所：エル・おおさか南館　734
内容：１．講義：「安定した職業生活のための企業の役割　続編」
　　講師：従野　隆　氏
　２．実践報告
　　第１号ジョブコーチの実践（講師調整中）
　　第２号ジョブコーチの実践（㈱JR西日本あいウィルより）
　３．情報交換会
　４．懇親会

＜短期職業訓練インターンシップ実施状況（H24.9.30）＞

Ⅰ．インターンシップ登録及び実施状況

実施中及び実施済件数		47名
	修了数	36名
	中退数	6名
	（うち雇用移行のための中退数）	（　0名　）
	実施中数	5名
実施予定および調整中		11名
登録取消		6名
IS利用登録人数合計		64名

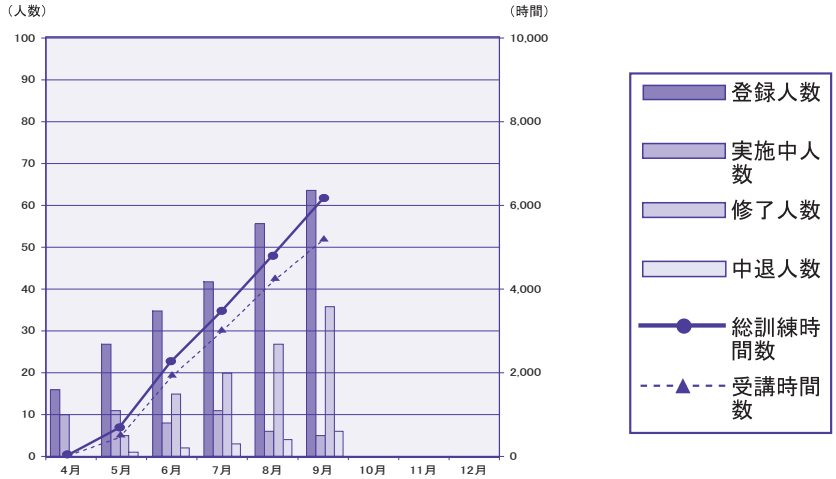
Ⅱ．インターンシップ相談者状況

＜全体＞

		身体					知的	精神	その他	計
		聴覚	視覚	肢体	内部	小計				
実施	修了者数	8	0	0	0	8	11	16	1	36
	中退者数	0	0	0	0	0	1	4	1	6
	実施中数	0	0	0	0	0	0	5	0	5
小計		8	0	0	0	8	12	25	2	47
実施予定・調整中		0	0	0	0	0	2	9	0	11
登録取消		0	0	1	0	1	2	3	0	6
合計		8	0	1	0	9	16	37	2	64

Ⅲ．就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	1	4	4	0	9
障害種別就職率	13%	33%	16%	0%	19%

※就職状況については一部確認が取れていない所があるため、数に反映できていない可能性があります。

H24年度　インターンシップグラフ